

取扱説明書

用途

- 木造建築用途全般
- 木造建築における、接合金物の釘止め作業

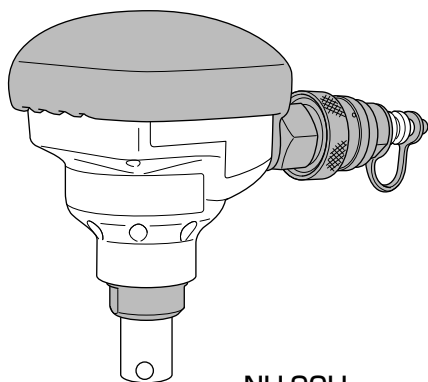
高圧ばら釘打機 NH 90H

ばら釘打機 NH 90AB

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



NH 90H

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

高圧ばら釘打機 / ばら釘打機の 安全上のご注意 … 1	はじめに
ばら釘打機の使用上のご注意 …… 7	
各部の名称 …… 8	
仕様 …… 8	
標準付属品 …… 9	

釘の選び方 …… 9	使い 方
ご使用前の点検・準備 …… 11	
釘を打つ …… 15	
釘の打ち方 …… 16	
調圧器について【NH 90Hのみ】 … 19	

保守・点検 …… 20	そ の 他
使用潤滑油 …… 22	
ご修理のときは …… 裏表紙	

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ 警告」、「⚠ 注意」、「注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠ 警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠ 注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

なお、「⚠ 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

高圧ばら釘打機 / ばら釘打機の安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警告

作業前

① 保護メガネを使用してください。

- 作業中は、保護メガネを使用してください。
- まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。
木材・釘の破片、打ち損じの釘が目にあたると、けがの原因になります。

② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

本機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。

①

保護メガネ



②

エアコンプレッサ



警告

③ 高圧ばら釘打機【NH 90H】には、高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを使用してください。

- 高圧ばら釘打機は、使用圧力を一般圧のばら釘打機より高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを使用してください。
- 高圧ばら釘打機およびこれらのエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用となっており、一般圧のものと接続できないようにしてあるので、改造をしないでください。
これら以外のものを使用すると事故の原因になります。

④ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。

⑤ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴、防じんマスクなどの防具を着用してください。

⑥ きちんとした服装で作業してください。

⑦ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。

- ねじ類がゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
- 釘ガイドがスムーズに動くこと。
異常があるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常があるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑧ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 釘が装てんされていないことを確認する。
- 釘ガイドに触れたり、対象物に当たった状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。
誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。

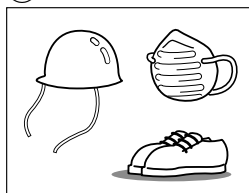
⑨ 釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- エアホースを接続ただけで、機体内部のピストンが連続作動しないこと。
- 空気漏れや異常音がしないこと。
異常があるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常があるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

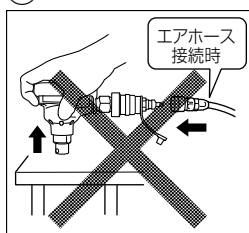
⑩ 用途にあった作業に使用してください。

本機は、木材または類似の材料への釘打ち作業を目的とした工具です。
指定された用途以外には使用しないでください。

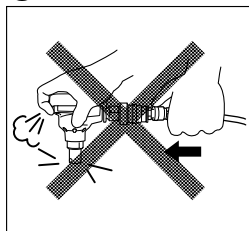
⑤



⑧



⑨



警告

- ⑪ 指定の釘を使用してください。
指定された釘以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。
- ⑫ 子供を近づけないでください。
 - 作業員以外、釘打機やエアホースに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
けがの原因になります。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑬ 作業場は、いつもきれいに保ってください。
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
- ⑭ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

作業中

- ① 指定の空気圧力で使用してください。
 - 高圧ばら釘打機【NH 90H】の使用空気圧力範囲は 1.76 ~ 2.26 MPa {18 ~ 23 kgf/cm²} です。
この範囲内で使用してください。
2.26 MPa {23 kgf/cm²} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。
 - ばら釘打機【NH 90AB】の使用空気圧力範囲は 0.55 ~ 0.69 MPa {5.6 ~ 7 kgf/cm²} です。
この範囲内で使用してください。
0.69 MPa {7 kgf/cm²} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。
- ② 人体に射出口を向けないでください。
人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。

①

1.76~2.26MPa
{18~23kgf/cm²}



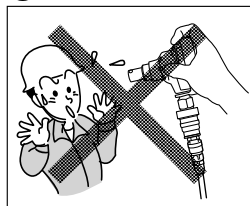
高 圧

0.55~0.69MPa
{5.6~7kgf/cm²}



一 般 圧

②

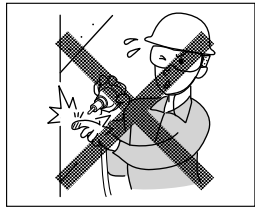


警告

③ 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。

誤って釘が発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。

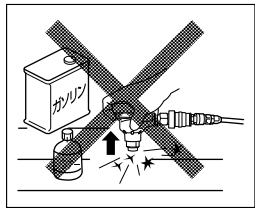
③



④ 釘を打ち込む材料の裏側に、手や身体を置かないでください。

釘が突き抜けたり、材料が欠けたときなどに、けがの原因になります。

⑤

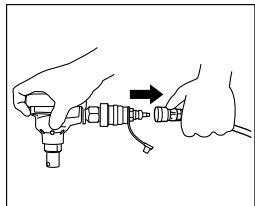


⑤ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、釘打機やエアコンプレッサを使用しないでください。

釘を打ち込むときの火花による引火や、空気とともに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

⑥



⑥ 次の場合は、エアホースをはずしてください。

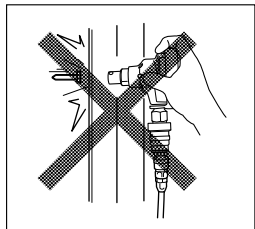
- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
 - 点検・修理・調整、釘づまりの直しなどの場合。
 - 釘打機を移動する際や手渡しする場合。
- 誤って作動する恐れがあり、けがの原因になります。

⑦ 作業中はまわりの人に注意してください。

- 木材・釘の破片や、打ち損じた釘が当たる恐れがあり、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、下に人がいないことを良く確かめてください。

機体や材料などを落としたとき、事故の原因になります。

⑧



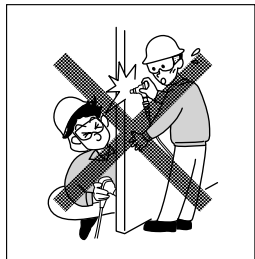
⑧ 薄い板や木材の端に釘を打たないでください。

薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の端に打つと釘がそれたりして、けがの原因になります。

⑨ 機体の反発に注意してください。

硬い所に打った場合、機体のはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

⑩



⑩ 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。

打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれたりして、けがの原因になります。

警告

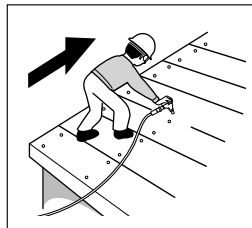
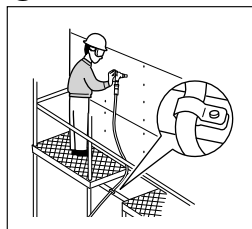
⑪ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。転倒して、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。けがの原因になります。

⑫ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。不意にエアホースを引っかけたりした場合、けがの原因になります。
- 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。後退しながら作業すると、足を踏みはず恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

⑫



⑬ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 釘打機を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑭ エアホースをつかんで機体を移動しないでください。

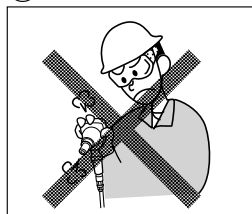
⑮ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことを良く点検してください。

内部の圧縮空気て破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

⑯ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。

そのまま使用すると、けがの原因になります。

⑯



警告

作業後

- ① 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

釘を残しておく、次に使用するときなど、誤って作動した場合に、けがの原因になります。

- ② 釘打機やエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当てたまま放置しないでください。

- ③ 釘打機は、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率良く作業していただくため、釘打機は常に手入れをし、清潔に保ってください。

- 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。

- ④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。

乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

- ⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。

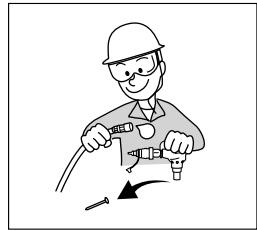
安全性が損なわれ、けがの原因になります。

- ⑥ 釘打機の修理は、専門店で依頼してください。

修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。

ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

①



ばら釘打機の使用上のご注意

先に釘打機として共通の注意事項を述べましたが、ばら釘打機として、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警告

- ① **使用前に釘ガイドの動きを確認してください。**

エアホースを接続しないで、釘ガイドの先端を木材などに押し当て、ガイドが確実に動くか確認してください。

釘ガイドの動きが不完全のまま使用すると、釘がはずれることがあり、けがの原因になります。
- ② **エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。**
 - 釘ガイド内に釘が入っていないことを確認してください。
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。
 - 釘の出口は下に向け、射出口付近に人体、手足がないことを確認してください。
 - 釘ガイドの先端を台や床などに載せないでください。
- ③ **釘の装てんは、慎重に行ってください。**
 - 釘を釘ガイド内に装てんするときは、釘の先端を持たずに軸を持ってください。
誤って指に打つ恐れがあり、けがの原因になります。
 - 釘をガイド内に装てんするときは、釘がピストン先端を押さないように注意してください。
釘をガイド内に必要以上に入れると、ピストン先端を押し、作動する恐れがあり、けがの原因になります。
- ④ **釘を打つとき以外は、釘を釘ガイドに装てんしないでください。**

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。
- ⑤ **釘を打つときは、釘の先端を確実に打ち込み対象物に押し付けてください。**

確実に押し付けないと、釘がはね返る恐れがあり、けがの原因になります。
- ⑥ **指で釘を保持して打ち込むときは、次のことに注意してください。**

釘を打つ順序は、釘の先端を打ち込み対象物に当て、その後、釘ガイドの中に釘頭を入れてください。

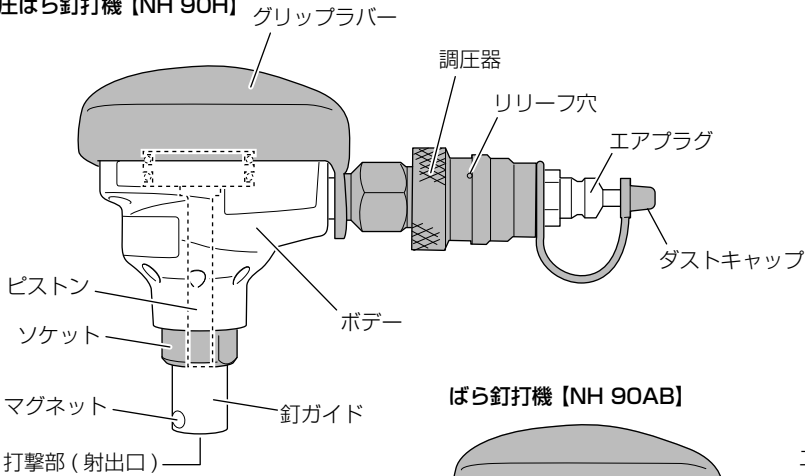
確実に当てていない場合や、釘頭を先に釘ガイド内に入れると、釘がはね返ったり、誤って作動し釘が発射した場合、けがの原因になります。
- ⑦ **接合金物への釘止め作業は、釘の先端が必ず接合金物の穴に入ったことを確認してから打ち込んでください。**

釘がはね返る恐れがあり、けがの原因になります。
- ⑧ **本機を金づちがわりに使用しないでください。**
- ⑨ **長時間の釘打ち作業は避けてください。**

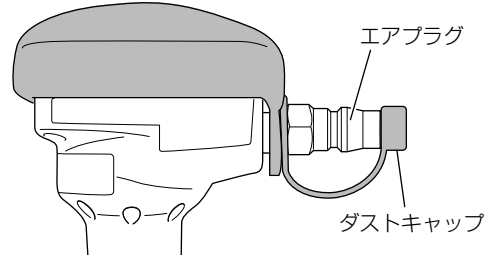
本機での釘打ち作業はできるだけ短時間にしてください。また連続作業は避け、間に適当な休止時間をもってください。

各部の名称

高圧ばら釘打機【NH 90H】



ばら釘打機【NH 90AB】



はじめに

仕様

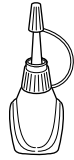
機種名	高圧ばら釘打機 NH 90H	ばら釘打機 NH 90AB
動力形式	ピストン往復動式	
使用空気圧力	1.76 ~ 2.26 MPa {18 ~ 23 kgf/cm ² }	0.55 ~ 0.69 MPa {5.6 ~ 7 kgf/cm ² }
機体の大きさ (長さ×高さ×幅)	175 × 111 × 69 mm	108 × 111 × 69 mm
質量	0.7 kg	0.6 kg
使用エアコンプレッサ	高圧エアコンプレッサ EC1445H3、EC1245H3、EC1445H2、EC1245H2	
使用エアホース 内径 長さ	高圧エアホース 5 mm 以上 30 m 以内	一般圧エアホース 8 mm 以上 30 m 以内

標準付属品

保護メガネ (1 個)



油さし (1 個)



釘の選び方

本機は、次に示す市販釘、弊社製ばら釘打機用釘が使用できます。

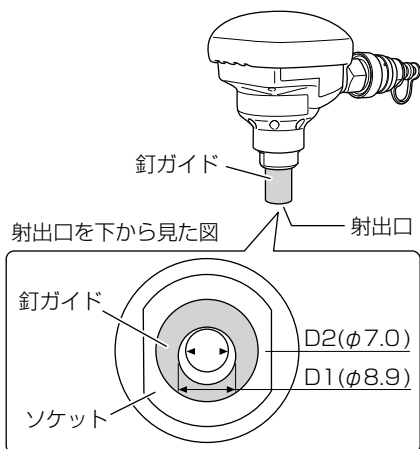
- 注** • 下記に示す市販釘および弊社製ばら釘打機用釘以外は使用しないでください。釘が釘ガイドの中に入り込み、動作不良になったり、釘ガイドを傷めたり、斜めに打ち込まれたりすることがあります。
- 市販の細径セメントコート釘や細径鉄丸釘 (FN 90 など) を使用すると釘が曲がったり、つまったりすることがあるので使用しないでください。細径釘は、専用の弊社製ばら釘打機用釘 (P.10「2. 弊社製ばら釘打機用釘」参照) を使用してください。
 - コンクリートや鋼板等への焼入釘やステンレス釘の打ち込みは、本機に悪影響を与えるので使用しないでください。

1. 市販釘

釘形状	名称	種類	L寸法 (mm)	d寸法 (mm)	D寸法 (mm)	色
	鉄丸釘 (JIS A5508)	N 65	65	3.05	7.3	—
		N 75	75	3.4	7.9	
		N 90	90	3.75	8.8	
	太め鉄丸釘 (JIS A5508)	CN 65	63.5	3.33	7.14	黄
		CN 75	76.2	3.76	7.92	青
		CN 90	88.9	4.11	8.74	赤
	細め鉄丸釘 (JIS A5508)	BN 65	63.5	2.87	7.54	クリア
		BN 75	76.2	3.25	7.92	茶
		BN 90	88.9	3.43	8.74	緑
	金物接合用釘	ZN 40	38.1	3.33	7.14	—
		ZN 65	63.5	3.33	7.14	
		ZN 90	88.9	4.11	8.74	

注 釘頭の大きさに注意してください。
市販の丸釘は、頭の大きいものや、小さいものが混入していることがあります。
釘ガイド (D1) の中に釘頭が入らないものや、(D2) の中に釘頭が入り込んでしまうものは、使用しないでください。

$$D1(\phi 8.9) > D > D2(\phi 7.0)$$



2. 弊社製ばら釘打機用釘 (細径・コート・高強度)

次に示す釘は鉄丸釘 (N 90 など) より軸径が細いため、木材が割れにくく、またコーティングを施しているため、木材に打ち込みやすく、抜けにくいという特長を持っています。

釘を曲がりにくくするため、高強度な材料を使用しています。

弊社製ばら釘打機用釘は本機をお買い求めの販売店でお求めください。

釘形状	名称	L寸法 (mm)	d寸法 (mm)	D寸法 (mm)	色
	スムーズ	H 3490	90	3.4	黄
	スクリュー	H 3890N	90	3.8	

注 市販の細径セメントコート釘や、細径鉄丸釘 (FN 90 など) を使用すると釘が曲がったり、つまったりすることがあるので使用しないでください。

ご使用前の点検・準備

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

●エアコンプレッサ、エアホースの準備

警告

- 高圧ばら釘打機は、使用圧力を一般圧のばら釘打機より高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。
- 高圧ばら釘打機およびエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットは専用となっており、一般圧のものと接続できないようにしてあるので、改造しないでください。

高圧ばら釘打機【NH 90H】に使用できる高圧エアホース内径は 5 mm 以上です。
ばら釘打機【NH 90AB】に使用できるエアホース内径は 8 mm 以上です。

高圧エアホース / エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

注 高圧エアホース / エアホースの長さは、30 m 以内のものを使用してください。
エアホースが長いと圧力が低下して、十分な打ち込み力が得られません。

●エアコンプレッサのドレン除去

水や油が内部にたまりますと、さびの発生などで故障の原因になります。

使用前には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。

乾燥した圧縮空気を使用してください。(詳細はエアコンプレッサの取扱説明書を参照してください。)

●釘の準備と安全点検

用途に合った釘を準備してください。(P.9「釘の選び方」参照)
P.20「保守・点検」を参照し、安全点検を必ず行って下さい。

警告

- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- 子供など作業員以外は近づけないでください。
- ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。

● 空気圧力の確認

空気圧力は、釘の打ち込み能力（釘の長さ、木材の堅さなど）に合わせて、機体の使用空気圧力の範囲内で使用してください。

高圧ばら釘打機【NH 90H】は 1.76～2.26 MPa {18～23 kgf/cm²}、ばら釘打機【NH 90AB】は 0.55～0.69 MPa {5.6～7 kgf/cm²} の範囲で調整してください。

機体の性能、寿命、安全に影響を及ぼしますので、空気圧力は使用範囲内で使用してください。

● 給油について

- 必ず 1 日に 2 回以上、作業の前後に 10～15 滴の油をエアプラグから入れてください。作業前の油は潤滑油になり、作業後の油はさび止めになります。
- 油は付属の油を使用してください。その他、市販で使用できる油は P.22「使用潤滑油」を参照してください。なお、混用は避けてください

- 注** ● 高圧ばら釘打機【NH 90H】に付属の油さしは、ノズルに穴があいていません。針等で穴をあけて使用してください。
- 作業前の場合、給油直後空気を通すと、しばらくの間油が排気口と射出口より噴霧状に飛び散るので、油がかかっても支障のない所で 2～3 本釘を打ってから作業してください。
 - 作業後の場合、注油後 1 本だけ釘を打つと油が内部に行き渡ります。

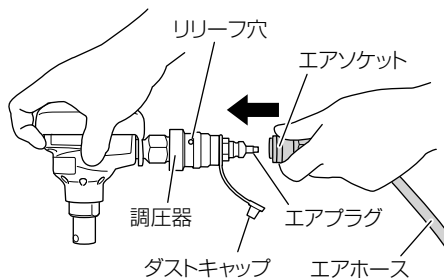
●エアホースの接続

⚠警告

機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

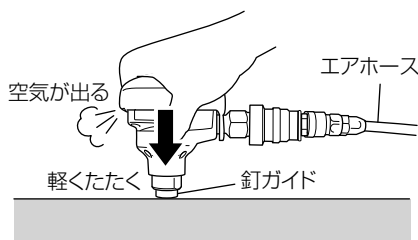
- 釘ガイド内に釘が入っていないことを確認する。
- 釘ガイドを台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。

- ① エアプラグからダストキャップをはずします。
- ② ごみやほこりが内部に入らないよう、エアプラグの口元のごみをふき取ります。
- ③ エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んで、エアホースを接続します。



注 高圧ばら釘打機【NH 90H】の場合、エアホースを接続した直後、調圧器のリリーフ穴から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。

注 エアホースを接続したときに、前方の排気口から空気が出ることがあります。このときは、木材などに本機の釘ガイド部分を軽くたたいてください。(右図参照)
空気が止まり、作動可能な状態になります。



釘を打つ

警告

- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
- 使用しない場合や作業中断時は、エアホースをはずしてください。
- 作業終了後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

注 低温時に使用すると、機体の動作が悪くなることがあります。

1

給油する

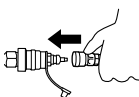
10～15滴の油をエアプラグから入れてください。さび止めのため、作業後も給油してください。(P.13「給油について」参照)



2

エアホースを接続する

エアホースのエアソケットを、エアプラグにさし込みます。(P.14「エアホースの接続」参照)

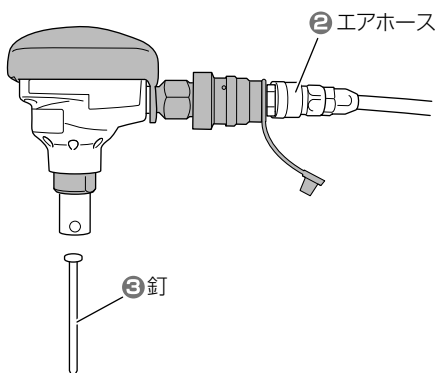


3

釘を打つ

作業に応じた打ち方で、釘を打ち込みます。(P.16「釘の打ち方」参照)

注 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を0にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が0になります。



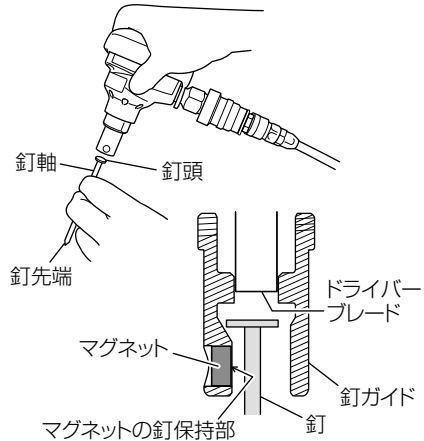
釘の打ち方

⚠ 警告

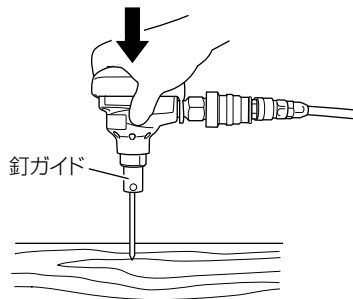
- 釘を釘ガイド内に装てんするときは、釘の先端を持たずに軸を持ってください。
- 釘をガイド内に装てんするときは、釘がピストン先端を推さないように注意してください。
釘をガイド内に必要以上に入れると、ピストン先端を押し、作動する恐れがあり、けがの原因になります。
- 一度打った釘の上に、釘を打つことはしないでください。
- 釘を打つときは、釘の先端を確実に打ち込み対象物に押し付けてください。
- 本機を金づちがわりに使用しないでください。

● マグネットで釘を保持して打つ場合

- 1 釘の軸を指で軽く持ち、釘頭を釘ガイド内にさし入れ、右図のようにマグネット付近の保持部に釘を吸着してください。



- 2 釘の先端を打つ所に当て、本体を押し付けて、釘を打ち込んでください。

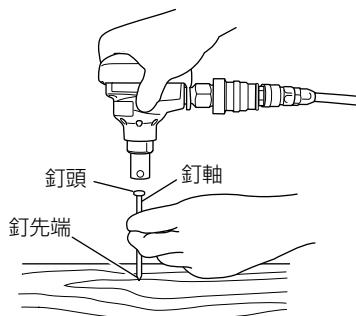


●指で釘を保持して打つ場合

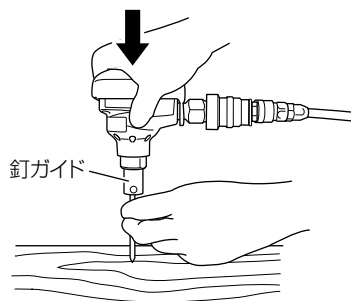
⚠警告

指で釘を保持して打ち込むとき、釘を打つ順序は、釘の先端を打ち込み対象物に当て、その後、釘ガイドの中に釘頭を入れてください。

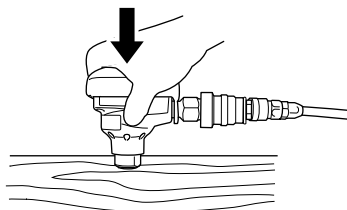
- 1 釘の軸を指で軽く持ち、釘の先端を打つ所に当てます。



- 2 釘ガイドの中に釘頭を入れて、釘がある程度打ち込まれ安定するまで本体を軽く押し付けます。



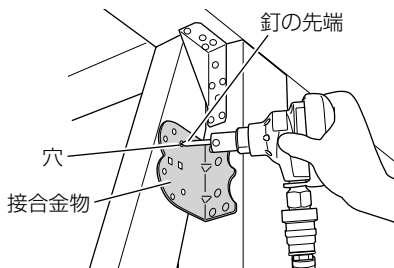
- 3 釘がある程度打ち込まれ安定したら釘から指をはなし、釘頭が面一になるまで本体を押し付けます。



●接合金物への釘止め作業

⚠警告

釘の先端が必ず接合金物の穴に入ったことを確認してから打ち込んでください。



調圧器について【NH 90Hのみ】

⚠警告

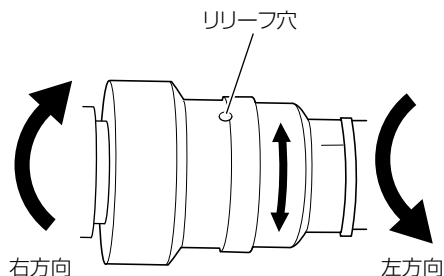
調圧器で打ち込み調整をするときは、次のことに注意してください。

- 釘ガイド内に釘が入っていないことを確認する。
- 釘ガイドを台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。

この機体には、釘打ち込み能力（釘の長さ、部材の硬さなど）に応じて出力を無段階に変えられる調圧器が付いています。

調圧器を右方向（目盛りが大きくなる方向）へ回転すると打ち込み能力が強くなり、左方向（目盛りが小さくなる方向）へ回転すると弱くなります。

注 調圧時、調圧器のリリーフ穴から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。



この調圧器は、高圧エアホース側の圧力 $1.76 \sim 2.26 \text{ MPa}$ { $18 \sim 23 \text{ kgf/cm}^2$ } を一般圧 ($0.55 \sim 0.69 \text{ MPa}$ { $5.6 \sim 7 \text{ kgf/cm}^2$ } 前後) に減圧しています。

調圧器内にごみなどが入ると、密封性が低下し、この状態でエアホースをつないだまま長い間放置すると、徐々に機体内の圧力が上がってリリーフ穴から空気が排出されることがあります。

万一、空気が排出された場合は、次の手順にしたがって状態を確認してください。空気の排出が止まれば正常です。

- ① すぐにエアホースをはずします。
- ② エアコンプレッサの圧力が 1.76 MPa { 18 kgf/cm^2 } 以上に復帰するまで待ちます。
- ③ エアホースをつなぎ直します。

(1 回で空気の排出が止まらない場合は、①～③の手順を数回繰り返してください。)

上記①～③を行ってもリリーフ穴から空気を排出し続ける場合は、調圧器の故障ですので、直ちに作業を中断してエアホースをはずし、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

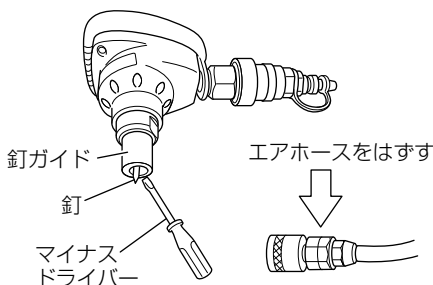
保守・点検

⚠ 警告

- 釘が詰まったときは、エアホースをはずして使用を中断してください。
- 釘が詰まった状態で機体を作動させないでください。
- 点検・手入れの際は、エアホースをはずしてください。

● 釘づまりの直し方

- ① エアホースをはずします。
- ② 釘ガイド内につまった釘を、マイナスドライバーなどで取り除きます。
- ③ 釘ガイドがスムーズに上下動することを確認してください。
(下の「釘ガイドの点検」参照)



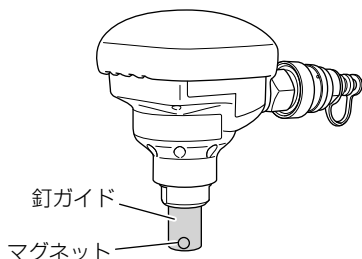
● 釘ガイドの点検

釘ガイドの摺動部はときどき掃除し、注油してください。

本機を木材などに押し付け、釘ガイドの動作がスムーズであるかどうか確認してください。

注油することにより、動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

釘ガイドのマグネットに鉄粉等が付着すると釘吸着力が低下しますので、ときどき布や粘着テープなどで取り除いてください。

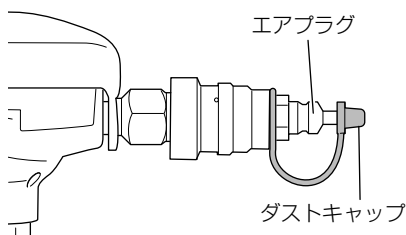


● 機体の点検

各部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

● ごみ・ほこりの防止

使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、機体内にごみが入るのを防いでください。



● 作業後の保管

注 エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。

- 作業後は、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、保管してください。
- 長期間使用しない場合：
 - さび防止のため、エアプラグから給油し、2、3本釘を打って油を内部に行き渡らせてください。
 - 金属の摺動部には油をうすく塗布してください。
 - 油は、付属の油をご使用ください。
その他、使用できる油は P.22「使用潤滑油」を参照してください。なお、混用は避けてください。
- 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので、暖かい場所に保管してください。
- お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。

使用潤滑油

使用潤滑油は、別売の釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類		銘柄および品名
釘打機・タッカ用オイル		———〔別途販売しております〕
その他の オイル 〔市販品〕	ベビコン油	日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル	エンジンオイル各銘柄 SAE10W、SAE20W
	タービン油	タービン油各銘柄 ISO VG32～68(#90～#180)

注 潤滑油は必ず上表の油を使用してください。
不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年 月 日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)		

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点
をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>